

第2回「特別支援学級運営充実推進委員会」会議録

委員長	<p>「第1回推進委員会における提案等の反映状況について」</p> <p>(1) 教員の専門性向上に関する取組</p> <p>皆さん、改めましてこんにちは。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、本日の第2回委員会の位置づけについて確認します。1回目の推進委員会の協議を受けて、教育委員会事務局や総合教育センター特別支援・相談課がいろいろな取組を進めて下さいました。この1回目の協議を受けた取り組みにつきまして、本日、委員の皆様から多様なご意見をいただきたいと思っておりますので、本日も、委員の皆様から多様なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。私たちにいただいている時間はおよそ1時間半程と考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。ここで、お願いがあります。本日の委員会では、最低、お一人1回はご意見やご質問をいただきたいと考えておりますので、重ねてよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速ですが、議事に移りたいと思います。</p> <p>今日は、協議する内容が議事の(1)から(4)まであります。議事(1)で一つのかたまり、(2)で二つ目、(3)と(4)で三つ目のかたまりとし、3つの枠組みで協議を進めさせていただこうと思っております。</p> <p>まずは議事(1)「教員の専門性向上に関する取組」について、事務局の方からご説明をお願いします。</p>
-----	---

	<p>(事務局説明)</p> <p>委員長 ありがとうございます。冒頭で申し上げましたが、今日の流れは、まず「教員の専門性向上に関する取組」についてご協議いただきます。その後、「校内支援体制」についてご協議をいただき、最後に「関係機関との連携」についてというように、ご協議いただく対象が徐々に広がっていくという流れでお願いしたいと考えています。</p> <p> それでは、まずは「1人1人の先生方に焦点を当てた教員の専門性の向上」という観点からご意見やご質問をいただきたいと思います。なお、資料3の「専門性チェックシート」につきましては、議論の後半に別に時間を取りますので、今は、「専門性チェックシート」以外についての取組に関して、ご意見やご質問をいただきたいと思います。では、どうでしょうか。</p> <p>委員 特に今回当センターでは、e-ラーニングの講座受講と、「特別支援学級に係る教員の専門性の向上」の中でも報告があった「モデル校におけるコンサルテーション」に取り組ませていただきました。</p> <p> e-ラーニング問題に関しては、随時更新していくお手伝いが出来れば良いと思うのが1つと、「用語」が微妙に変わっていくことがあるので、その状況に応じて正しい知識をどのように根付かせていくのかも大切なところではないかなと思います。できれば教員養成を行っているので、教員養成の中で同じような取組を、</p>
--	--

	<p>同じように取り組んでいけばいいなと思いますし、それは、もしかしたら他の大学にとっても必要なことかと思います。</p> <p>e-ラーニング自体は皆さんやるのですかね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員	<p>そうですね。幅広く特別支援学級の担任を希望されている方や、目指している方にも見ていただけるものになればいいなと思いますし、支援員として関わられる方にも見ていただけるとすごくありがたいとも思います。</p> <p>もう1つの「コンサルテーション」については、実践に関わられていただきましたが、先生方が熱心に取り組んでくださり、子どもたちに成果として還元することができたかなと思っています。</p> <p>今後のこととていうと、コンサルテーションは1事例ずつ取り組んでいくことになるので、その1事例の成果をどうやって地域に広めていくかというあたりの具体的な方策や効果的な方法を思いついたわけではないのですが、これから考えていかなければならないポイントかなと思います。今回、コンサルテーションの実践成果をオンラインで配信していただいたことで、いろいろな学校の先生方から「見ました」と声をかけていただいたのですが、それと同時に「具体的にやってみよう」と思われている方が今どのくらいいて、その方々にどのようにコンサルテーションや知見に基づいた取組を経験できる機会を提供していくのが、今後</p>

委員長	<p>の課題であると思っています。新しく特別支援学級を担当される先生は毎年いらっしやるので、新しく担当される先生に、このような成果を感じてもらいつつ実践していくことができるような、良い循環で流れていく取組を考えていかなければいけないと思っています。私からは以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今の委員の話の中では、「コンサルテーションで成果が出た事例をどう広げていくか」という課題が述べられていました。</p> <p>実践事例の成果を読まれた先生が「自分もやってみたい」と思われて、同じように取り組んでみても、事例のお子さんと目の前のお子さんとの間にギャップがあるので事例のようにうまくいかず、躓いてしまうことがよくあるんですね。</p> <p>そうした時に、委員からお話があったように「どうフォローしていくのか」ということです。フォローによって適切な支援や指導につながり、そのことがまた広がっていくという循環を、どのようにシステムとして構築していくかというところですね。これが1つの課題ですね。</p> <p>それと私も驚いたのですが、コンサルテーションの成果報告をオンラインで配信したところ、九州から北海道まで視聴者がおられるとのことでしたが、もう少し詳しく教えていただけますか。</p>
事務局	参加の内訳をお伝えすればよろしかったでしょうか。

委員長	はい、簡単で結構です。
事務局	<p>第1部の1月12日には、県外から163名の参加がありました。内訳としましては、県外の小学校から93名、中学校から11名、高校から4名、特別支援学校から30名、教育委員会から15名でした。</p> <p>北が北海道釧路養護学校から、南は沖縄県の西崎特別支援学校から参加がございました。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>やはりいい取組をすると日本中の方が見ていると思うと、すごく嬉しくなりました。</p> <p>他に質問でもご意見でも結構ですので、どうかよろしくお願いします。</p>
委員	<p>前回、いろいろと意見を言わせていただきましたが、今回の資料から様々な改善をされていることを知り、大変ありがたいなと思っております。</p> <p>ホームページの改善については、実際に使わせていただいたところ、本当に使いやすいくて、見やすくなっているなと思いました。</p> <p>具体的には、総合教育センターホームページ内の「まなびの広場」が探しにくかったところ、「まなびの広場のパンフレット」を作ってくださったこと、また、</p>

目次が「特別支援学級や通級指導に関すること」、「ポジティブな行動支援に関すること」、それから「子ども用学習教材」や「コンサルテーションの実践事例」など、分類されているので、すごくアクセスしやすかったです。

ただ、言いにくいところですが、e-ラーニングに取り組ませていただいて、目的が違うと思いました。「知識」を重視して一問一答形式になっていますが、現場の私の困り感からすると、「どうしたらいいのだろう」という悩みに対する具体的な手立てや対応方法などの情報を知りたいです。この点に関しては、掲載されているコンサルテーションの実践事例が参考になって、すごく助かりました。もしe-ラーニング問題に1つリクエストが出来るのであれば、現在は問題に対する回答に出てくる「解説」が回答の繰り返しになっていることが多いので、プラスアルファの情報があると、より知識欲が湧くと思います。よろしくお願いします。

次に「あどばいすタイム」については、午後4時くらいから開催されており、ご案内もいただいているのですが、中学校教員なので部活動の指導がありまして、なかなか参加できない状況です。前回発言させていただいて、オンデマンド配信もしていただき、受講しやすくなりました。また、内容はすごく使えるものだったので、資料を入手し、活用させていただきました。以前であれば、どうやってサイトに入ったらいいのだろうと分からなかったのですが、ログインIDとパスワードが書かれていたので、困ることなくアクセスできて、よかったです。他県の方も利用できるようになっていて、県内と県外でパスワードが異なっており、いろいろな方がアクセスできるようになっているのは大変いいのではないかと思います。

ました。本当に困っている方が知識や情報を得られる点では、よいと思ったのですが、「なぜパスワードが必要なのか」と疑問もあります。一手間がかかってしまい、負担感があるなと思いました。大変改善されていてありがたいのですが、困った時にすぐにアクセスできると更にありがたいです。もし理由があれば教えてくださいたいです。

本当に現場の教員は時間も余裕もありませんので、特別支援教育だけに携わって子どもたちに寄り添いたいと思っても、学校業務や他のクラスの授業担当もあって難しいところがあります。以前も申し上げましたが、いろいろな問題が起こるのは余裕のなさや精神的な負担からだと思います。以前ご案内いただいたeラーニングを活用した「特別支援教育推進月間」についても、すごく多忙な時期に急に連絡が来て、推進月間なので取り組むように校内で周知された時には、現場の一教員として絶望感を味わいました。「忙しくて余裕のなさに困っていること」と「知識を身に付ける」というところでギャップを感じています。自分が必要な情報を困った時にもらえるとすごく助かるのですが、そうではなく、強制的に上から取り組むように言われると、さらに余裕がなくなったり、苦しみが生まれてきたりと大変な状況になってきます。そのあたりのところをいつも考えてくださっていると思うのですが、問題行動を抱える生徒がたくさんおまして、教員は本当にメンタルがぎりぎりのところで日々の教育に取り組んでおります。どうか配慮をお願いします。

以上です。

委員長	<p>今のご意見について、事務局の方でこれについて何かお考えや方向性はございますか。</p>
事務局	<p>ご質問のありました「ログイン」の件ですが、実はアクセス数をカウントしているというところがあります。「なぜアクセス数をカウントするか」という点については、受講する方々がどんな問題を受講しているのかを把握するためです。アクセス数の多い問題につきましては、先程委員からご意見いただきましたように「解説」をつけるなど、改善に向けた検討を進めてまいります。</p> <p>それから、県外の多くの方々にも e-ラーニングを活用していただいています。「知識」を得るうえで質が高い取組であるということから、県外の研修の事前課題として取り入れていただいている状況もあり、県外の研修が始まったら県外からのアクセス数が一気に増えるところがあります。そういった状況からも、委員からのご意見を参考にしながらの改善を念頭に置いています。</p> <p>次に、2点目の「特別支援教育推進月間」が負担だったというご意見をいただきました。実は「特別支援教育推進月間」ですが、幼稚園、小学校、中学校、高校の先生方に特別支援に関する知識を身につけていただきたいということで、6月と11月の年2回設定いたしました。設定にあたっては、多忙な状況を考慮し、それぞれの先生方が自分の空いている時間に受講していただけるようにするという意図から期間は「1ヶ月間」と長めに設定しました。委員の方からは厳しかっ</p>

<p>委員長</p>	<p>たというご意見をいただいておりますが、例えば、幼稚園の先生からは、「勤務時間中はずっと子どもがいるので、1ヶ月間に、どの時間でも受講が可能な研修はいい」とのご意見もいただいております。</p> <p>今日いただいたご意見も含めまして、来年度以降の「特別支援教育推進月間」の持ち方について検討して参ります。貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>なかなか難しい問題ですね。やはり、現場が一番求めていることは「困った時にそれをフォローしてくれるような情報が欲しい」ということですよ。</p> <p>指導方法については、日頃から幅広く勉強することが大切ですが、それに加えて、目の前の子供の指導に行き詰まった時に、ポイントを絞って深く勉強することも必要です。「困った時に総合教育センターのホームページを見ると、そこにヒントがあるというようなシステムにならないか」というご意見であったように思いました。そのあたりが今後の課題の一つになるのです。</p> <p>他にご意見はございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>先程のお話ですが、e-ラーニング問題では、間違えた答えを選んでも解説が出るのでしょうか。それぞれに解説が出るのであれば、これと同じものを事例のような感じでたくさん並べておいて、教員が困った時にその見出しで検索したら、必要な解説が得られて対応の仕方などが分かるというふうにはできないでしょうか。</p>

	<p>例えば、問3の1番「勝手なことばかりして指示に従わない」とありますが、「勝手なことばかりで指示に従わない」という見出しで、それをクリックするとその時考えられる対応が箇条書きでも出てくれば、それを読んで、教員がこの中から選んでやってみようというふうにつながるのではないのでしょうか。</p> <p>この e-ラーニングの中の問いに対する答えが参考となって、それでまた違う事例では別の対応の仕方というものを作ってみてはどうでしょうか。その中でもクリック数が多いものには、星3つとか4つとか評価をしたら、多くの教員がどのようなことで困っているのか、課題や問題が浮き出てきて把握できるのではないのでしょうか。教員がどういった内容に一番アクセスしているのかが分かったら他で躓いた教員も「こちらの星印も見てみよう」というふうになって、様々な対応が出来るようになるのかなと思います。</p> <p>先程、時間がないと仰っていたことはよく分かりますし、家でも親として時間がなかったりするので、時間がない中で答えを出してしまうようになるのですが、そのようにできたら負担の軽減になるのかなと思いました。</p>
委員長	この件について、事務局の方から何かありますか。
事務局	<p>今、お二人の委員から「困った時に必要な情報を」といった視点で、ご意見をいただきました。</p> <p>実は、現在、特別支援学校コンサルテーションの成果報告は、県民の皆様が分</p>

委員	<p>かりやすいように物語風にしており、「こんな課題があつて」「保護者の願いはこうで」「担任の願いはこうで」といった形でまとめ、保護者の同意を得られたものについて公開させていただいています。現在は、特別支援学校の事例の蓄積が多いのですが、これから小・中学校の事例も蓄積していこうと思っております。</p> <p>ただ、公開中の特別支援学校の事例についても、小学部、中学部、高等部というふうに学部ごとに分類しているだけなので、今2人の委員の話を伺いながら、校種とか学年の分け方ではなくて、困り感に応じた見せ方、すぐに目的とした内容に辿り着けるような工夫ができるのかなと思いました。貴重なご意見をいただいたので検討していきたいと思えます。</p> <p>コンサルテーションの事例を見せていただきました。自分が困っている生徒に似ている事例があつて、発達段階とかも書かれていました。また、子どもにどのような特性があつて、先生方がどんな点で困っていて、どのような工夫をされたのか詳しく書かれており、大変参考になりました。</p> <p>確かに私が見た画面では、今仰ったように小学部・中学部・高等部になっていて1個1個クリックしてその事例を見ていきました。ホームページに箇条書きになっているのですが、一覧があつたらすぐ分かりやすいなと思っていて、PDFでハンドブックにされて、「特性に応じて」なのか、「発達段階に応じて」なのか、「事例に応じて」なのか、分け方はいろいろあると思いますが、「目次」があれば見やすいかなという一意見です。</p>
----	--

<p>委員長</p>	<p>今のご意見は、「使う側の立場で、使いやすい切り口や見せ方をしてください」という内容であると思います。「こういうことで困ったら、ここをクリックしてください。そうすると参考となる情報にとんでいく」という切り口というか見せ方をさせていただければありがたいということです。</p> <p>また、事務局から説明がありましたが、特別支援学校の事例は現在、小学部、中学部、高等部ごとという形で紹介されているのですが、そうではなく困り感や指導方法から入っていくようにしてほしいということですね。切り口の問題だろうと思います。編集する時や入っていき方を考える時に、現場が使いやすいような工夫をしていくことで、より使い勝手がよくなるという話だと思いますので、ご検討いただけたらと思います。</p> <p>他の観点からのご意見ご質問等ございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>ホームページというのが、ネットを検索すると出てきて、「情報収集する」あるいは「情報発信する」メインの手法だったのですが、最近はSNSの時代だなと思います。福祉の分野でもSNSで全ての情報を発信しています。例えば、もう少しハードルを下げてみますと、皆さんハッシュタグで検索しますよね。情報を発信する時にハッシュタグを付けて相手方が見つけやすい、あるいは絶対ヒットするような付け方をしてアピールしていくというそれが当たり前の時代になってきているということであれば、例えば、現場の先生方が欲しいなと思う情報発信</p>

をする時に、ハッシュタグでいろんな関連性を付けて、欲しい情報がすぐ手に入るというようなことも1つ考えてみたらいいのではないかなと思います。

それで、今日の資料を見せていただくと、e-ラーニングもある、オンデマンドもある、それからSNSというものも出ています。いろいろな取組をされている訳ですから、最近のツール、なおかつSNSとはスマホで一番使いやすい形になっていますので、「いつでもどこでも」ということになりますので、そういった観点からも検討してみる必要はあるのかなと思います。

それと、いろいろな視点を持って専門性の向上という恒常性を達成するために様々な取組をされているのは、すごいなと思いながら資料を見ておりました。ある委員が仰ったのと私も同じ感想でして、恒常性に向けた仕掛けがここにはいっぱいあるなと感じました。これから大切なのは仕掛けをいかに仕組みにしていくのかという点で、私も同意見です。では、そのためには何が必要で、どういうことをしていけばいいのかというところですが、今話にあがっていたSNSとかホームページで情報を開示していくということも、仕組みになっていく一つのきっかけになっていくのではないかなと思うと同時に、早速自分のところも取り入れてみたいなと思いながら聞いておりました。

先程、先生のお立場である委員から「非常に時間がなくて、現場はなかなか忙しいところもある」とお話がありましたが、福祉の方に引き寄せて考えるとやはり同じ事が言えます。1人1人の支援員、あるいは専門職は、日々利用者とのいろいろな突発的な出来事、その他諸々障がい特性によるいろいろな支援の困難性

	<p>の中でやっています。しかし、それがどうしても「1人ぼっち」なのですね。例えば、保護者の方からのクレームであるとか他機関との何かトラブルがあれば、すぐに現場の責任者や管理者とかが一緒になって、チームで対応していくというふうにはなるのですが、現場の1つ1つの出来事というのは、なかなかチームで対応していくことは難しいから、同じだなと思って聞いていました。そういう意味で今回の委員会で専門性を高めていくという1つの切り口は、言うなれば生徒の方の「ウェルビーイング」(well-being)を保障していくこととなるならば、もう一方で、福祉の世界であれば支援員の「ウェルビーイング」(well-being)を保障していくと考えるのが、専門性の向上と一緒に本来の目指すべきものがしやすくなるのではないのかなということを思いながら聞いておりました。以上です。</p>
委員長	<p>基本的に各種取組に関するお褒めの言葉をいただいたと思います。</p> <p>その中で、欲しい情報がすぐ手に入るためにはどういった手法を考えていったらいいかというご意見でありました。</p> <p>他にご意見ございますか。</p>
委員	<p>e-ラーニングであるとか、動画の公開であるとか、また特別支援学校のホームページの更新というのは、教員にとって情報を収集する手段がいろいろと増えて本当にいいなと思います。一方で、それを求めなければ情報が入ってこないというところもあると思います。特別支援・相談課の方の文書にもあるように、この頃</p>

は特別支援学級の担任を初めてする方、経験が浅いという職員も増えているという現状が実際にございます。教員全体が年代の入れ替わりで、新しい教育経験の年数の浅い教員が増えてきているというのがありますし、その上で特別支援学級の担任をする経験が浅い方、初めての教員も多くございます。教員としての経験も短い上に、特別支援の授業を担当するという経験も浅い。同時にそれを積み重ねていくというところで大変苦労していると思います。特別支援教育に関する専門性を向上していくのは、やはりどうしても時間がかかるように思います。しかも通常の授業をしながらとなると余計に。その合間で、自ら情報を求めて研修するということはやはり教員として必要なところなのですが、実際のところ目の前にした子どもたちとどう関わっていくかという時に他の特別支援教育コーディネーターから少しアドバイスを受けるだけでうまく対応できるし、そこで自分も研修を積み重ねていくことが出来るというところがございます。先程の「チームで対応」とありましたが、本当に学校もチームとして取り組んでいかなければいけないと私もつくづく感じます。その一方で、学校によっては特別支援教育の経験年数が少ない者しかいないという状況もあります。その時に学校外に頼れる人材がないということになると、大変です。いろいろなところへ支援をお願いはできるのですが、ニーズが多くて「すぐ」というわけにはいきません。しかし、実際に「すぐ」というところを満足できたら、現場の負担感とか研修も身に入ってくるのではないかと思います。その意味で、こういった資料ももちろん大切ですが、経験のある特別支援学校の先生方と、小・中学校の先生方の人事交流をも

	<p>っと活発にすることにより、研修の幅が学校現場で達成できるのではないかというふうなことも考えています。以上です。</p>
委員長	<p>現場の校長先生としてのお立場ならではご意見が含まれていて、特別支援学校と小・中学校等との人事交流ということについてもお話が出ましたがどうでしょうか。</p>
事務局	<p>委員より、人事交流のお話をいただきまして、我々も計画的に人事交流を進めていきたいと思っています。</p> <p>ただ、その一方で、以前は特別支援学校と小・中学校等との人事交流を希望する方もいたのですが、最近少し減少気味です。</p> <p>こういったことを踏まえまして、今後は、積極的・計画的に進めていきたいと考えているところであります。</p>
委員長	<p>事務局の方でもこれから積極的に取り組んでいただけるということです。</p> <p>さて、教員の専門性の向上というところで、資料3「専門性チェックシート」というのがございまして、これも大きな議題の1つになっております。</p> <p>今からは、資料3「専門性チェックシート」につきまして、ご意見をいただきたいと思えます。このことについて、どなたからでも結構ですので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>

委員	<p>チェックシートに関してですが、1つ目が裏面の下から3つ目の「連携」というところですか。先程からお話に出ていたチームで子どもたちの支援にあたるということで、「連携」の中に「校内連携」・「関係機関」・「保護者」・「地域」と4つの項目を作っていて、「連携」の大切さが、このチェックシートからすぐく伝わると思いました。この会でも話題となった「保護者連携」が、今まで現場では欠けていた部分であると思うので、保護者の願いとか教育的ニーズをしっかりと聞き取って支援に活かすということを、これからも大切にしていきたいと思っております。</p> <p>2点目は、こんな内容も入っていたらいいなというところが、人権教育に関わる内容です。特別支援学級の担任をしていて思ったことですが、特別支援学級の子どもたちと通常の学級の子どもたちとの関わりというのがとても大事になってきていて、そのためには、障がいの理解というのがすごく大切だなと感じていました。通常の学級の子どもたちへどのように説明して、どのように理解してもらうかというところですか。小さい頃から接していると、大人以上に子供同士の方がより理解できているというところもあります。通常の学級の子どもたちに対して障がい理解を促すために説明するといった役割も特別支援学級の担任にはあるのかなと思います。そういう部分も項目として設けていただけたらいいなと思います。</p> <p>最後にもう1点です。特別支援学級の担任をしていた時にすごく気を遣って</p>
----	--

<p>委員長</p>	<p>たことで「情報の取り扱い」です。子どもたちの個人情報とか、障がいに関する診断のこととか、保護者にとっては非常にデリケートなところだと思いますので、決して外には出さない「守秘義務」というところを、先生方には大切にしてくださいと思います。以上です。</p> <p>まずは「連携」のところですが、チェックシートを通して4つの連携が重要であることが確認できるということでした。</p> <p>あとの2点については、「特別支援学級の担任としてどのように人権教育等を進めていくのか」ということです。これも支援学級の担任に求められる専門性の1つであることから「障がい理解について、常に自分自身の取り組みを振り返っていますか」という観点からの項目を増やしていただきたいということ。加えて、「情報の取り扱い」についても重要な項目ですので、増やしていただきたいところです。</p> <p>専門性チェックシートに関する今回のご意見やご要望に対して、事務局からの1つ1つの回答はிரないと思いますので、今後ご検討いただけたらと思っております。</p> <p>他にご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>今回、「専門性チェックシート」の資料をいただいた時に自分でやってみました。まさに特別支援学級の担任としての今の自分を振り返ることが出来て、授業の振</p>

り返りが出来ていなかったことや、進路指導のところで就労に関する情報について自分はよく分かっていなかったなと感じました。

結構細かく項目を設定してくださっているので、特別支援学級の担任として4年の経験はしているのですが、自分が出来ていないところが明らかとなって、とてもよかったですと思いました。

勉強不足なのですが、「環境設定」のところで「構造化の手法」とはどんなことだったかなと自分で検索して、具体例を知って「こういう事だったな」と思い出したり、イメージしたりすることが出来ました。また、「トライアングルプロジェクト」という制度についても言葉が分からず、検索して「連携」ということが分かり、改めて自分の知識不足も分かりました。ただ、経験が少ない方にとっては分からない用語もあるように思うので、少し注釈があればありがたいと思いました。

また、用語的なこともそうなのですが、「不器用さや感覚過敏への配慮が出来ているか」と聞かれた時に、具体的な配慮の内容が思い浮かぶ先生もいると思いますが、なかなか思い浮かばない先生もいると思います。そうした時に、具体例がそこに記されていれば、それがまさに学びにもつながると思いますし、これであれば今やっていることでよいと分かり、自信にもつながると思います。

私は、この「専門性チェックシート」は、とてもよいと思うのですが、これをただチェックするだけではなく、これはできていないから次やってみようと思えるような、次に繋がる具体的な内容があるといいのかなと思いました。以上です。

委員長	<p>委員からのご意見をお伺いしていると、「素人」と「玄人」があるとすると、この「専門性チェックシート」は、「玄人」が作った「玄人好みするチェックシート」だなという印象を持ちました。</p> <p>特別支援学級を初めて担任した人や経験2年目までくらいまでの人がこのチェックシートを使うと、使いこなせずに、チェックする前にいろいろなところで引っかかってしまうように思いました。「専門的の高い先生はこういう言葉を使うのだな」ということをあえて気付かせるのか、それとも「もう少し噛み砕いて書き、使い勝手がよいチェックシートを目ざすのか」ということについては、悩ましいところがあるように思います。専門的な言葉を使った上で、この言葉はこういう意味ですよと欄外に説明を書いてあげるといいのかなとも思ったりしますが、この点についても少し検討する必要がありそうです。また事務局の方でご検討いただけたらと思っております。</p> <p>他ご意見ございませんか。</p>
委員	<p>よく似た意見になるのですが、この「専門性チェックシート」は、個人で運用するのでしょうか、それとも学校で運用するのでしょうか。この1枚ものの資料にも「個人の取組」として、まず自己分析を行ってください。そして、「学校の取組」として、これを人材育成に活かしていきますというふうに記載されておりますが、実際には、どういう運用を想定されておられるのかという点が1つの質問です。</p> <p>もう1つは、やはり自己分析をするのであれば、1つの指標があった方が親切</p>

委員	<p>なのかなと思います。「出来ている」、「出来ていない」があるのは分かるのですが、全体的に見てどういう結果なのかが分かる分析シートがこれに少し備わっていれば、より効果的になるのではないかと思います。</p> <p>あと、やはりコンプライアンスの項目というのは必要かなと感じています。</p> <p>以上です。</p> <p>先程から委員の皆様のご意見を聞いていて、e-ラーニングであったりQ&Aであったりいろいろなコンテンツがある中で、それを活かすことが出来るシートになればいいなというふうに思っています。少し大変かもしれませんが、チェックシートを付けた人の解説シートがあって、これが「知識ブック」となって、これを見たらいいのだなということが分かるというふうに思っています。少し大変かもしれませんが、特別支援学級の担任をされる新任の先生が、たぶんこの項目数を見るとしんどい気持ちになってしまいそうな気もするので、新しく担当をされる先生用のチェックシートはいるのかなと思いました。これをどうとるかは難しい話ですが、別に新しくチェックシートを作るというよりは、重要項目に色を付けるといった対応でもいいかもしれません。「まずここから取り組んでください」みたいなものがあると分かりやすいのかなというふうに思ったりもします。e-ラーニングの「解説」が、まだ十分ではないことは承知していますので、今後も協力していけるようにしようと思っています。そこが充実してくるとチェックシートとの関連が出来てくるのかなとも思います。</p>
----	--

<p>委員長</p>	<p>この項目自体について、「全員が出来ている」というものを項目にするのも違うし、「全員が出来ていない」というものを項目にするのも違うと思うので、例えば、研修とかで先生方に1回付けてもらって項目の分析をしてみるというのも必要かなというふうに思います。「平均値」となると難しいですが、ばらつきが出るような項目なのかどうか、逆に言えば、みんなが出来ていればそれはそれでいいのかもしれませんが、どういう項目を配置しているかということは、ある程度データに基づいているとよいと思いました。</p> <p>いろいろとご意見が出たように思います。</p> <p>「情報の取り扱い」や「人権に関すること」、「障がいの理解に関すること」といった項目が必要ではないかというご意見が出ました。</p> <p>このチェックシートの各項目を「出来る」、「出来ない」「中間」等と評価して結ぶと折れ線グラフみたいになるのですが、その結果を見ると自分はどのあたりが弱くて、どのあたりの専門性が強いのかといったことが一目で分かるようになると思います。私はこういうところが弱いからしっかり勉強していかないといけないということが、パッと見て分かるようにエクセル等を使えば作成できるのではないかと思います。</p> <p>また、「環境設定」とか、「ワークシステム」や「構造化」、「刺激の量を調整する」など、専門性の高い先生が使う言葉が網羅されているので、これを説明するだけで特別支援教育が分かるくらいのチェックシートになっているわけです。で</p>
------------	--

	<p>すから、これらを説明する欄が必要かどうかも含めて検討する必要があるかと思 います。</p>
委員	<p>この「専門性チェックシート」の中身については、特別支援学級ハンドブック の中身とリンクはできないのでしょうか。おそらくこういった中身は、ハンドブ ックに書かれていると思うので、分からなければハンドブックの何ページを参照 といったアドバイスがデジタル的にできてもよいですし、紙ベースでもよいと思 いますが、そういったものがあれば難しい用語があっても大丈夫かなと感じます。</p> <p>それと、各項目の文末表現については、「出来る・出来ない」とか「している・ していない」というのではない文末がいいかなと思います。以上です。</p>
委員長	<p>また一步進むようなご意見をいただきましたので、事務局の方でご検討いただ けたらと思っております。</p>
委員長	<p style="text-align: center;">(2) 校内支援体制の充実に関する取組</p> <p style="text-align: center;">(3) 関係機関との連携に関する取組</p> <p>委員の皆さんからのご意見で、残り時間が少なくなってきましたので、予定を 変更し、議題(2)「校内支援体制の充実に関する取組」と(3)「関係機関との連 携に関する取組」をまとめて事務局からご説明をお願いします。</p>

	<p>(事務局から説明)</p> <p>委員長 それでは、議題（２）（３）の内容につきまして、ご意見やご質問をいただきましたと思います。</p> <p>委員の皆さんどうですか。</p> <p>委員 先生方が困っていた時とかに、このような検討する時間があることでいろいろな取組が充実してきて、想像するだけでも、学校の中で子どもたちが生き生きと活動できる環境が出来てきているだろうなと感じています。ただ、そこが素晴らしくなるほど、先生方の負担がすごく増えていくのではないかなという不安もあるので、子どもたちのゆっくりした成長をベースにおいて、その子たちにあった支援をゆっくりとやっていくのが一番いいかなと思っています。</p> <p>委員長 今のお言葉が保護者の方の本心だと思います。</p> <p>素晴らしいシステムを作られて、担任の先生も頑張らないといけないということとで取組が進められていますが、子どもが一番大切であるということを忘れないでくださいねということですよ。</p> <p>他にございませんか。</p>
--	---

<p>委員</p>	<p>これまでの意見を反映していただいて、熱心に取り組まれているなというふう に感じております。その中の「関係機関との連携の充実」というところで、今、子 どもさんの生活場面を考えた時に、家での生活、それから学校での生活の場面、 それから福祉事業所、例えば、障害児通所支援といった場面があると思います。 それぞれの場面によって子どもさんの状態とか様子も多分違っているだろうなと 思いますし、その中で、「先生方が取り組まれていること」、また、「事業所が取り 組まれていること」、「家で取り組まれていること」が、もう少しミックスされて いけばうまく支援がつながっていくのかなと思います。それぞれがばらばらに思 ったところで支援に携わっているので、それを連続性の中でとらえ、子どもさん の生活全体という広い視野に立ったところでの教育の在り方を考えた時に、学校 の先生だけの連携の枠に留まらず、福祉関係機関とのつながりや、福祉関係者と 意見交換する場もあったら、よりいいのではないかなということを感じました。 以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういった連携は本当に大切だと思いますし、保護者のお立場の委員の方も実 際に感じられている部分ではないかと思います。子どもは、いろいろな場で見せ る顔が違うところがあると思いますが、そのあたり保護者のお立場からいかがで しょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>そうですね、特に発達障がいであれば社会性がないと言われているのですが、</p>

	<p>それでも先生を見ながら、「この先生であれば融通が利くのか」、「この先生であれば言うことを聞かないといけない」とか使い分けをしたり、「厳しい親であれば要求は通らない」というふうに子どもは見ているところがあるなと思いました。</p> <p>それと、この関係機関との連携のパンフレットですが、お願いしてきたことがこのような形で実現されて、ありがたいと思っています。ありがとうございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他にございませんか。</p>
委員	<p>「連携」の部分ですが、学校が家庭との連携をしているという思いと、家庭が学校と連携できているという思いが、多少なりともずれが出てきていると思うので、やはり大きな面談の機会だけではなく、保護者とふれ合う時間を普段からたくさんとっていただいて、常に同じ方向を見ていただいていることが大事だと思っています。</p>
委員長	<p>大切だけど難しい課題ですね。保護者の方と同じ方向を見ていると思っている先生は多いと思いますが、保護者の方から見るとそうではないことがあるということですね。情報を交換する時間をとって、常に微調整をしていく必要がありますね。</p> <p>校長先生のお立場である委員として、また、現場の代表としてどうですか。</p>

委員	<p>私たちも保護者の方との連携は、本当に大事ですし、教員ももちろん自覚してくれていると思うのですが、実際にそれができているかという点、もう一度真摯に見直していかなければいけないかなと思いました。</p> <p>担任と保護者であれば、保護者は心の中で思っているがなかなか正直に言えないことがあるのに、担任がそれに気付かず、表面上のことだけを真実だと思い込んでしまっていることがあります。すれ違ったまま進んでしまい、何か起きた時にはやはりそれは大きな問題になるということが、私たちの経験上、本当にあります。すれ違いをなくし、同じ方向を見ていくことができるようにするためには、委員が先ほど仰ったように1学期に1回とかではなく、普段から必要な時にお話ができる関係が大事かなというふうに改めて感じました。</p>
委員長	<p>そういうことですね。委員からの今のお話を、議事録を通して沖縄から北海道までの先生方が読んでくれるとうれしいですね。</p> <p>他にご意見はございませんか。今回は(2)(3)と協議内容の幅が広いと思いますが、どこからでも構いませんのでお願いします。</p>
委員	<p>「校内支援体制」のことですが、1つ目がポジティブな行動支援の研修についてです。特別支援教育巡回相談員として、県内の何校かの学校で研修をさせていただいております。学校全体で取り組む目標を設定して、全教職員で取り組むという実践を一緒にさせていただいているのですが、管理職の先生のリーダーシッ</p>

	<p> プなのか、担当の先生の頑張りなのか分からないのですが、学校全体で取り組もうという学校が本当にたくさんあって、研修をする立場からするとすごく嬉しく思っています。それは、県の皆さんがPBSの取組を盛り上げてくださり、全ての先生が自分事として考えて取り組むという姿勢が高まってきたからだと思っています。今後のPBSの研修も頑張っていこうと思います。 </p> <p> 2点目は、校内支援委員会「プチ」についてです。 </p> <p> 以前に紹介させていただき、研修もしていただいたのですが、学校の規模などによってやり方が変わってくると思います。多忙な校務の中で、小学校・中学校において週1回の時間を取ることは難しいと思いますし、規模によっては全員が集まるのは難しいと思いますので、学年内で時間をとったり、学級単位で時間をとったりと少し工夫が必要になると思います。 </p> <p> いろいろなやり方で、こういった小さいチームでの悩み相談会みたいなことが定期的に開催できるように、これからも考えていっていただけたらと思います。 </p> <p> 以上です。 </p>
委員長	他にございませんか。
委員	<p> 少し話が変わっていくかもしれませんが、今回は特別支援学級の運営充実の推進委員会ですが、特別支援学級と合わせて通級による指導教室の今後を充実していく必要もあるのではないかと考えています。通級による指導教室を担当する教 </p>

	<p>員の課題であるとか、専門性についても、てこ入れをしていかなければいけない と思います。やはり通常の学級に在籍する子どもにおいても何らかの発達障がい が疑われる子どももいるように思いますし、実際に診断を受けているけれども通 常の学級の中で十分な支援を受けられていないという子どももいるように思いま すので、特別支援学級の運営と共に通級による指導教室の方もお願いできたらな と考えています。よろしくをお願いします。</p>
委員長	<p>通級による指導の教室については、非常に現実的な課題だと思います。これか らはここにも焦点を当てていかなければいけないと強く思うわけです。また事務 局でお考えいただければと思います。</p>
	<p>他ございませんか。</p>
委員	<p>先程の「保護者との連携」の話ですが、例えば、親の会であれば、入会してくる 人がいます。入会する人のニーズとしては、何か困り事があるとか、他の保護者 の話が聞きたいとかがあります。学校の場合は、そういったニーズが保護者に有 るか無いかに関係なく接していると思います。例えば、子どもが家に帰ってきた らご飯を食べさせて、お風呂に入れて、寝るという日常的・一般的なケアしかし ていないと子どものニーズに気付かない親もいると思います。また、療育までは 時間がとれないという親もいて、「子どもと向き合う親」と「子どもと向き合っ ていない親」というのがあると思うのです。それで「親の会」であれば入会してきた</p>

人に対していろいろとお話をしたり、入会していない人でも何か相談があれば対応したりといったところがあるのですが、学校はそういったニーズを伝えてこない親とも関係性を築かねばならず、教員はその場所から逃げられない。親がどう
いう親であれ逃げられないという状況で、いろいろと対応していただいていると思うのです。逃げてしまう親に対応をしたくても、私たちもなかなかそういう親
に出会えません。「親の会」に来てくれる親は、何かしら発言したいことがあるのですが、「親の会」でも拾い上げられないような親の現状を知っているのは、やはり
学校教員の皆様でないのかなと思っています。そういった情報を学校からいただけたら、「親の会」としても、どういう親にはどういうふうな対応をしていけば
いいのか、親同士の目で見たり、つながりを作ったりするといった対応の仕方が出来るのではないかと少し思いました。負担が偏ってしまうというのも親として
心苦しいところではあるので、何か助け合いができればいいなと思いました。

委員長

かなり突っ込んだご意見だと思います。保護者の方の中には一所懸命に子どものことを思って行動されている方が多いと思いますが、現実を見たくないという親御さんもいらっしゃいます。また、現実を知らない、分かっていない親御さんや、分かった上で見たくないという親御さんもいらっしゃいます。学校は、いろいろな立場の親御さんと関わっているので、先生方は色々なお考えの親御さんを知っている訳です。「親の会」というか当事者団体としては、現実を知らない、現実を見たくないなどの親御さんにも手を差し伸べたいのですが、どうしたらいい

のか分からないというジレンマがあるということです。目の前にそのような親御さんがいても、個人情報との絡みがあり、どうしたらいいのだろうかという悩みも抱えているという問題提起をしていただいたと思っております。ありがとうございます。

本日はたくさんのご意見をいただきました。あと1時間あっても時間が足りないくらい、ご意見を頂けると思うのですが、全ての委員さんから少なくとも1回以上はご意見をいただくことができました。多くの項目について多様なご提案をいただきましたので、また事務局の方でもお考えいただけるのではないかと期待をしております。

それでは予定の時間が来ましたので、事務局へお返しいたします。